

# 三原の魅力再発見フォーラム

～築城450年に向けて～

## パブリックヨーティング

取り組みの実現に向けて

三原商工会議所 勝村 善博 氏

三原市の賛同から

広島経済同友会三原支部 勝村 憲明 氏

鯉を観光資源に

まず二層構造の再構築（案）に対して三原市に賛同してもらうことが第一歩です。そこから文化庁に掛け合っていかなければなりません。商工会議所としては期成同盟会を結成し、募金目標を定めて取り組んでゆきます。文化庁から承認をいただければ、完成予想図が描けます。募金が可能となれば2年の期限で実施を考えています。日本経済新聞の記事に鹿児島市の事例が載っていました。西南戦争で焼失した城門の復元に市民主体で取り組んでおり、すでに目標の募金額を達成したというニュースとなっていました。また長浜市や諫訪市の事例では三原市より規模の小さい町にもかかわらず、市民からの募金で達成しています。



官民協働でのまちづくり

築城450年は官民協働でまちづくりを進めるスタート地点だと考えています。倉敷商工会議所会頭の大原氏からこのような話を聞きました。まちづくりは公共マインドを持った市民とシビルマインドを持つ行政マンの共同作業で作成していくなければならない。まさにその通りだと思いました。理想のまちを、一言でいうと「生活をして楽しいまち」であります。NHKの世界ふれあいまちづくりという番組では、人びとがお金持でなくても生き生きとまちの暮らしを楽しんでいます。今はひとが暮らす基盤整備が出来ておれば地方都市のほうが快適に暮らせると言っています。三原市は交通インフラや病院等も整い、災害も少なく大企業も立地がしやすいといった様々な点で住みやすいまちとなりました。城跡の整備や三原内港の景観や空き店舗の整備などを進めれば、市内散策も楽しめると思います。生活しやすいまちにさらに近づくよう、株式会社まちづくり三原（注1）の機能をより発揮すべく取り組んでゆきます。

三原を観光の起点に

観光客は尾道、竹原で増えていますが、それらのひとつとは交通の要衝である三原を経由しています。観光客を三原駅から下車していただく工夫が必要と考えています。そのため経済同友会では世界一の鯉をメインにまちの観光資源を育てようとしています。錦鯉はクールジャパンの一つであり、これを三原から発信し続けることで独自のアイテムとなってゆきます。これからはハード面の整備より、きれいな風景や食などソフト面の充実が魅力となってゆきます。感動分岐点を超えて、三原にひとが来るような仕組みを創りましょう。大きなビルを建てればひとが来るという時代ではありません。既存の施設や資源を有効活用することが大事と考えています。近隣都市には多くのひとが来ているのに、三原にはなかなか来てくれないのが現状です。三原を観光の起点として広島から福山、瀬戸内海を含め散策するコースが築ければにぎわいが創出できると思います。まずは鯉の城下町構想をきっかけに観光地三原となるよう取り組みます。

（注1）株式会社まちづくり三原とは…中心市街地活性化のための事業を進め、にぎわいと魅力あるまちなかを創造するために、民間事業者のノウハウを最大限活かしながらまちのマネジメントや施設整備等、公共性・公益性の高い事業を進めていくことにより、まちなかの魅力と資産価値を高め、まちなかの再生を目指すことを目的に設立されています。

築城450年に向けて私たちの連携は始まったばかりです。

取り組みの実現に向けて

一般社団法人三原青年会議所 大石 努

甲冑部隊のやっさ踊り

三原市へ協力要請して全面協力を頂いています。予算もつけていただき、水の浄化について調査中です。経済同友会ではこの構想について提言だけではなく、実現に向けた取り組みを進めています。文化庁の視察は決定しており、史跡の保存と復元についての許可をいただくことが主目的となっています。井の頭公園のかいばりについて調査を進め、参考にしたいと思います。経済同友会では鯉に注目して観光資源に育てようとしていますが、それはタコでも他の名産品でも構わないと思っています。国では2020年のオリンピックに向けて外国人観光客を増やそうとしています。三原もこれを機に乗ってゆく必要があります。



基調講演

# 「築城と三原の歴史」



【近代産業都市へ】明治時代 1900年

江戸時代に糸崎松浜で港が築かれ、1900年に糸崎港が特別貿易港として開港します。これが三原の近代産業工業都市となるきっかけになります。その後トスコ、帝人、三菱重工等の大企業誘致が成功し昭和20年~30年代は大変なにぎわいを見せました。

【三原に新幹線開通】昭和時代 1975年

三原駅に山陽本線と新幹線が併置されます。開通当時にこのような話が残っています。ある都市に三原のひとが訪れた際、「三原はどのような田舎ですか？」と聞かれ、「新幹線が停まるまちです」と答えました。すると慌てて「大変失礼いたしました」と謝罪されたようです。この時代では新幹線が停まることは一つのまちのステータスとなっていました。先人の方が努力され三原に新幹線をつなげ、空港、港もあることにもっと私たち市民が誇りと自信を持つてもよいと思います。

◆浮城豆知識

【海に浮かぶ竜宮城】

三原城を見た当時のオランダ人が竜宮城のように美しい城が浮かんでいると言った記録が残っています。

【天守台の違い】

三原城の天守台は西側と東側で違います。西側は小早川隆景公の時代で石垣が大小合組み合わせた積み方となっています。東側は福島正則公の時代で石垣

がほぼ同じ大きさで積み上がっています。皆様ご存知でしたか？

コーディネーター&仕掛け人



三原青年会議所をはじめ、三原城築城450年に向けて取り組みを行なう諸団体の皆様と三原の歴史に関する知識をより深め、団体の活動をお互いに伝え合うことにより、今後の有機的な連携を目指したいとの思いでこのフォーラムを企画しました。平成26年に第一回を開催した瀬戸内三原城築城450年協議会はまだスタートしたばかりで市民の皆様への認知度も高いとは言えません。そういった中、このフォーラムが第一回目の学びと発信の機会となつたかと思います。これから諸団体間の本格的な連携を深め取り組みを推進していく段階だと考えています。瀬戸内三原城築城450年協議会をベースに、所属団体間の横つなぎを深め、お互いに相乗効果を出していくことにより、2年後に控えた築城450年事業がますます盛り上がり、このフォーラムがその一助となることを期待しています。

## どうなる三原駅前！？

駅前東館跡地の活用方針（案）が3月末に市から発表され、私たちは本当に市民の望む三原駅前となるのか調査を続けています。現在議論が進行しているのは公共（図書館及び広場等）を含む複合施設の建設です。公共の部分では図書館に加え、ハローワークや児童館等の意見も出ています。対象者を内需向けとし、三原市民の皆様に利用していただきたいとゆう行政の気持ちは理解できます。しかしながら、時代は少子高齢化による人口減少が加速的に進んでいます。人口が右肩下がりに減ってゆくのは誰しもが認識している中で、駅前が市内のひとたちだけでかつてのにぎわいを取り戻せるのでしょうか。現在の活用方針（案）に対し、市民や各種団体へ調査を行なった結果、施設建設に不安を感じている方が多いように感じました。多額の費用を使って、もう一度駅前東館跡地に施設を建設する案は賛否両論の状態では非常にリスクは大きいと思います。しかし、民間だけでは開発が進まないこともあります。そこで、もっと柔軟に民間と公共が力を合わせて市外からひとを呼び込める「観光都市三原」としてまちを創造し、駅前東館跡地の活用をもう一度考える必要があります。このままでは公共（図書館及び広場等）を含む複合施設が建設されてしまいますが、皆様はどのように感じていますでしょうか。

◆三原が栄えた時代

【沼田川の市場が盛況】

室町時代の永享5年、1433年に沼田川の堤防上で市場（本市300軒、新市150軒）があり大変にぎわいました。

【小早川隆景公時代】安土・桃山時代 1567年

三原城を築いた小早川隆景公の時代です。城と城下町を造成し、武士の居住区や市場を形成、寺院を三原に移します。周辺から人びとが流入しまちが発展しました。豊臣秀吉からは東の徳川家康、西の毛利輝元プラス小早川隆景として重要人物とされました。そのような小早川隆景公が最後まで拠点としていたのが三原です。慶長2年、1597年に小早川隆景公が三原城で急逝すると自然とまちの活気が薄れ地方都市の一つとなってしまいます。

【浅野忠吉公入場300年記念祭】大正時代 1920年

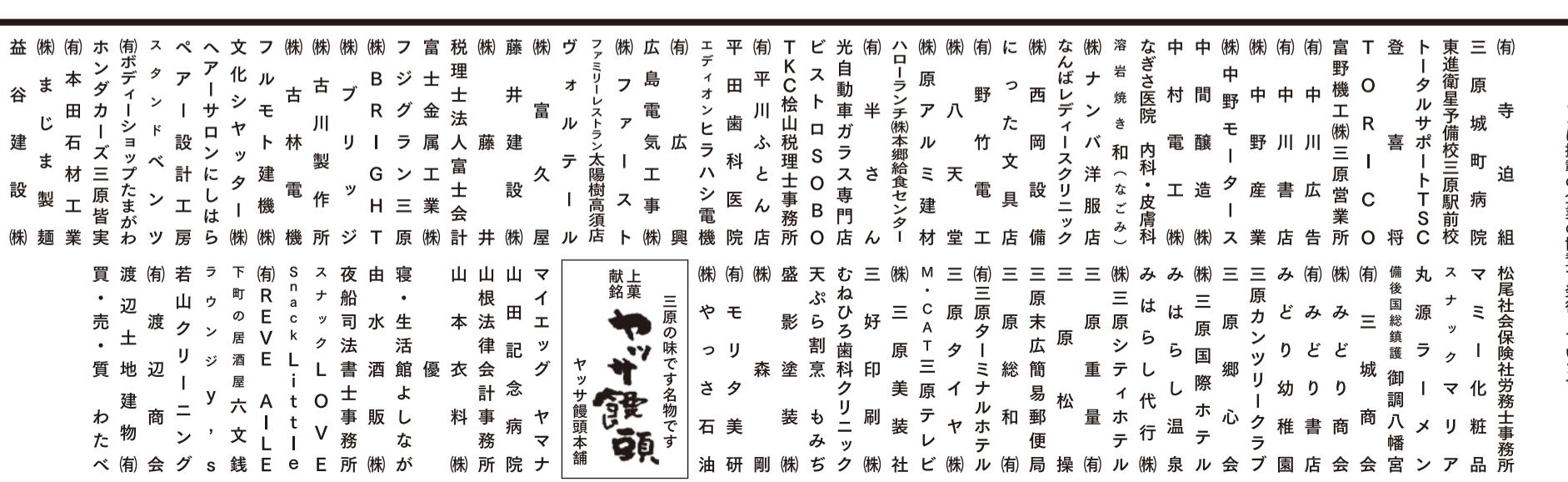
まちをあげての「浅野忠吉公入場300年記念祭」が開催されました。三原の人口は当時1万3000人ほどでしたが、3日間で5万人の集客があり、空前の盛り上がりを見せたようです。ただ残念なのはこの盛り上がりは一過性で終わってしまいます。2017年の築城450年では一過性で終わらずにまちの活気が続いていることを期待しています。

三原青年会議所でも5月19日の例会にて駅前東館跡地の活用問題について取り上げました。団体として駅前東館跡地に何を建てるのではなく三原駅周辺全体で考えてまちを開発する必要があると掲げています。その内で会員からは駅前に大きなビルを建てるのはなく、今ある資源を駅前東館跡地で有効活用してゆくことが大事ではないかとうや意見が多数出ました。駅前が空き地となっていることが問題ではなく、その空地を市民の憩いの広場として、またひとを集め観光スポットとして様々なアイデアを出し合い市民全体で駅前をもっと有効活用することが必要だと思います。今後も三原青年会議所では三原駅前について調査と発信を続けてゆきます。

## 広場は広場のままで！？



理想な駅前とはなんだろう？



ここに掲載の企業の協賛で発行しています。

